



ニッポン ドクター和の 臨終図巻

先日、三浦春馬さんの死をこの連載で書いたとき、若い読者の方からこんな感想を頂きました。「多くの記事を読みましたが、長尾さんのこの連載だけが、なぜ春馬君が死んだのかに言及しておらず、それが良かった」と。

誰かが自死をする、その理由を知りたくなるのが人の性。家族？ お金？ 仕事？ それとも男女関係？…何にでも明確な理由を求めたくなるのは、我々の悪い癖ですね。しかし、死の本当の理由など、亡くなった本人でさえ明確でない場合が多いのではないのでしょうか。

喪失や絶望という名の沼に足を取られてしまい、ふとしたきっかけから、あっけなくあの世に旅立ってしまう人が、いつの時代にも必ずいます。だから、

長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

173 女優 声名星



美しい黒髪とクールな顔立ちがとて印象的だった女優の名星さんが、9月14日に都内の自宅マンションで亡くなったのを、親族の方が発見しました。享年36。遺書は見つかっていませんが、自殺とみられています。

「詮索せず、ただその死を悼みたい」

この7月頃から友人には、「死にたい」と漏らしていたという報道も…。そのご友人を含め、周囲の方は悔恨の念に苛まれていることでしょうか。ただどうか、ご自身を責めないようにしてください。声星さんもそんなことは望んでいないはずですから、もしも大切な人から「死にたい」と言われたら、どう向き合えばいいのでしょうか。

この7月頃から友人には、「死にたい」と漏らしていたという報道も…。そのご友人を含め、周囲の方は悔恨の念に苛まれていることでしょうか。ただどうか、ご自身を責めないようにしてください。声星さんもそんなことは望んでいないはずですから、もしも大切な人から「死にたい」と言われたら、どう向き合えばいいのでしょうか。

大切なのは、その人の話に耳を傾けること。死に同意はできないが、あなたの辛さは理解している態度を示し続けること。どんな言葉よりも、黙って相手の目を見、相槌を打ってあげることがなによりも生きる力を生みだします。

それでも、いくら受け止めようとしても、ふっと三途の川を渡ってしまうことはあります…。とても辛いことですが、その後の我々にできるのは、「忘れないこと」。それだけです。ですから、声星さんの出演作品が今後も普通にテレビで放送されることを願っています。

私も医師として、患者さんからこの言葉を日々聞いています。まず、「もっと頑張れ」「甘いな」「生きていけばいいことがある」などの叱咤激励はやりません。もちろん、「そんなに死にたきゃ死ねば」もダメです。否定も肯定も、さらに追い込んでしまう場合が多いのです。